

下北沢音楽祭 2018 ミュージックラウンジ

懐かしくやさしい古楽器の調べ
教会で聴くバッハ・カンタータの音楽会



日時 2018年7月1日(日) 午後4時開場 4時半開演

会場 下北沢ナザレン教会(裏面に地図)

入場料 1000円(学生500円 小学生以下無料) 会場教会にて販売
お問い合わせ 小川圭一 WEB予約申し込み <http://bit.ly/2Jow3te>
mail shimokita.cantata@gmail.com Fax 03-6875-6894 電話 080-3028-1569

出演
指揮 尾崎徹
オルガン 北條祐子
管弦楽・合唱 Space Factory Cantata Ensemble
AltRec 秀島真奈 磯野明日香
Gamb 井上樹 竹前求
Sop 鷺見かおり Alt 片平理絵
Ten 大内繁 Bas 高内章

曲目 J.S.バッハ カンタータ 106番 「神の時こそいと良き時」
シックハルト リコーダーと通奏低音のためのソナタ イ短調 Op17-3
ボワモルティエ ソナタ(2台のヴィオラ・ダ・ガンバのための) Op66-2
ダウランド Come Again、Flow my tears 他



ビオラ・ダ・ガンバという楽器をご存知ですか？

16世紀から18世紀に盛んに奏でられていた楽器で、足（ガンバ）で支える弦楽器（ビオラ）という名の通り、チェロのようにエンドピンと呼ばれる棒で支えるのではなく、ふくらはぎに乗せて演奏します。

小、中学校でだれもが手にしたリコーダーも、実は同じ頃によく演奏された楽器でした。音楽室から流れてくる合奏の音からは想像できないかもしれませんが、宮廷ではとても軽やかで繊細な音色の楽器として、超絶的な技法も披露されていました。

ところが、音楽の中心が大きなホールや大教会に移っていくと、もっと大きな音の出るバイオリン属やフルート・トラベルソなどの新しい楽器が重宝がられ、サロンで用いられていたこうした音の小さな楽器は、表舞台から姿を消してしまいました。

実は、こうした古い楽器の素晴らしさが、それらの楽器を必要とする音楽とともに再認識されたのは、ごく最近のことなのです。

20世紀の古楽の復興が進む中で、美しい楽曲が次々と発掘されただけでなく、演奏者の教育も進み、また広く愛されるようになってきたことを、とても幸せに感じます。

今回は、とても親しみやすい音色のこれらの楽器の素晴らしさを、下北沢の皆さんにも感じて頂こうと、色々な曲を取り混ぜてお聞き頂く音楽会を企画致しました。

メインディッシュは、J.S.バッハ作曲の教会カンタータ

この曲は、彼が教会音楽家として一步を踏みだした時期に書かれた、葬送用の楽曲です。バッハは大好きだった伯父の思い出を紡ぐように、18世紀当時すでに古い楽器として演奏機会の減っていたこれらの楽器を用いて、愛らしい曲を書き上げました。

200曲程度残っている彼のカンタータの中でも、特に親しみやすく愛情に満ちたこの名曲を、実際に教会で演奏させて頂けることを、演奏者一同とても嬉しく存じております。

当日は楽器の紹介や、音楽の解説なども交え、楽しく聞いて頂こうと思っております。教会音楽を教会で、しかもオリジナルの古楽器編成でお聞き頂けるまたとない機会です。お連れあわせの上ご来聴頂きますよう、お誘い申し上げます。

会場：下北沢ナザレン教会

住所 東京都世田谷区代田 6-7-12

電話 03-3468-2702

- ・下北沢駅 西口より徒歩3～4分。
- ・下北沢駅 北口より徒歩5～6分。

駐車場はございませんので、電車を御利用ください。

